

只見町議会議長 齋藤 邦夫 様

経済文教常任委員会  
委員長 大塚 純一郎

経済文教常任委員会行政視察調査報告

本委員会の所管事項について、調査を行いましたので下記のとおり報告します。

記

1. 調査事項

- (1) 地域産業の振興に関する調査
- (2) 生活環境の振興に関する調査
- (3) 観光施設、交流施設の設置目的の検証と利活用に関する調査

2. 調査場所 宮城県色麻町、宮城県大崎市、山形県飯豊町

3. 調査日 平成30年6月27日～29日

4. 出席委員 大塚純一郎委員長、鈴木好行副委員長、目黒仁也委員、目黒道人委員、酒井右一委員

5. 調査内容

(1) 色麻町

少子過疎高齢化に歯止めがかからない只見町の最重要課題は、「若者定住政策」と捉え、雇用対策を踏まえた移住定住対策の調査活動を積極的に考えている。

宮城県色麻町では、「地域活性化住宅事業の取り組み」として、若者の「定住化促進」を目的とした50戸の整備を、民間活力を導入して建設する。(町が土地を提供し、民間企業が建設し、それを町が借上げ転貸する。)まさしく画期的な定住対策だと確認できた。

(2) 宮城県大崎市「あ・ら・伊達な道の駅」及び山形県飯豊町「道の駅いいで」

平成35年の国道289号八十里越道路の開通後を見据えた、当町の「道の駅」整備の重要性を認識している。

今現在、全国の道の駅1,145駅、福島県内で33駅が整備されている。その中で、宮城県大崎市「あ・ら・伊達な道の駅」と山形県飯豊町「道の駅いいで」の2か所を重点的に視察調査した。道の駅の整備目的の明確化、運営体制、農産物の生産、集荷システム、特産品開発、生産農家との連携、組織構成など、これから取り組まなければならないことが山積していることを、強く認識した。

以上